

[上から] 緑黒釉掛分皿 因幡牛ノ戸(鳥取) 1931年頃 / 流描皿 河井寛次郎 京都 1927-28年頃 /
藍鉄絵紅茶器 濱田庄司 栃木 1935年頃 / 食器棚 イギリス 19世紀
いずれも日本民藝館蔵 Photo: Yuki Ogawa



MINGEI



民藝

美は暮らしの
なかにある

令和7年 4/22^{Tue.} - 6/29^{Sun.}

[開館時間] 9時～16時30分(入場は16時まで) [休館日] 月曜日(ただし5月5日は開館)、5月7日(水)

[主催] 千葉県立美術館 [特別協力] 日本民藝館

[協力] 静岡市立芹沢銈介美術館、カトーレック [企画協力] 朝日新聞社、東映

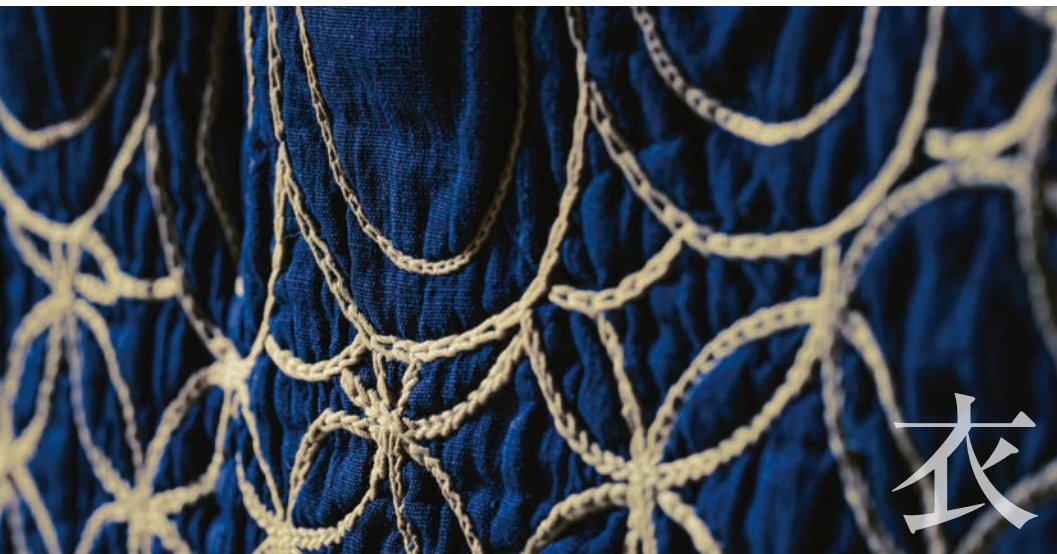
[後援] 朝日新聞千葉総局、NHK千葉放送局、産経新聞社千葉総局、株式会社ジェイコム千葉、千葉テレビ放送株式会社、株式会社千葉日報社、東京新聞千葉支局、日本経済新聞社千葉支局、株式会社ベイエフエム、毎日新聞社千葉支局、読売新聞千葉支局

千葉県立美術館
Chiba Prefectural Museum of Art

MINGEI
The Beauty of
Everyday Things

約 100年前に思想家・柳宗悦は日常生活のなかで用いられてきた手仕事の品々に美を見出し、「民衆的工藝-民藝」の考えを唱えました。日々の生活のなかにある美を慈しみ、素材や作り手に思いを寄せる、この「民藝」のコンセプトはいま改めて必要とされ、私たちの暮らしに身近なものとなりつつあります。本展では、民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らしで用いられてきた美しい民藝の品々約150件を展示します。また、いまに続く民藝の産地を訪ね、そこで働く作り手と、受け継がれている手仕事も紹介します。さらに、2022年夏までセレクトショップBEAMSのディレクターを務め、現在の民藝ブームに大きな影響を与えてきたテリー・エリス／北村恵子（MOGI Folk Art ディレクター）による、現代のライフスタイルと民藝を融合したインスタレーションも見どころのひとつです。

柳が説いた生活のなかの美、民藝とは何か、そのひろがりと今、そしてこれからを展望する展覧会です。



衣



食



住



上：刺子褶古着（部分）江戸時代 18-19世紀 日本民藝館蔵＊
下：[左から]流水に桜河骨文紅型着物（部分）首里（沖縄）19-20世紀前半 静岡市立芹沢銈介美術館蔵／
袖ショール 青田五良 京都 1930年頃 個人蔵＊／厚司（アットゥシ）アイヌ（北海道）19世紀 静岡市立芹沢銈介美術館蔵



上：スリップウェア角皿 イギリス 18世紀後半-19世紀後半 日本民藝館蔵＊
下：[左から]染付羊歯文湯呑 肥前有田（佐賀）江戸時代 18-19世紀 日本民藝館蔵／
塗分盆 江戸時代 18世紀 日本民藝館蔵／網袋（鶏卵入れ）朝鮮半島 20世紀初頭 日本民藝館蔵



上：桐文行燈 江戸時代後期 個人蔵＊
下：[左から]芯切鉢 京都 1920年代後半-1930年代前半 日本民藝館蔵／（左上から時計回りに）手箒 仙台郡山（宮城）1939年頃 日本民藝館蔵、
鹿沼箒 下野鹿沼（栃木）1939年頃 日本民藝館蔵、手箒 信州（長野）1939年頃 日本民藝館蔵／円座 朝鮮半島 1930年代 日本民藝館蔵／
椅子 オーストリア 19世紀初頭 静岡市立芹沢銈介美術館蔵

＊ Photo: Yuki Ogawa

第Ⅲ章：ひろがる民藝 —これまでとこれから

柳宗悦の没後も民藝運動は広がりを見せました。濱田庄司らが1972（昭和47）年に刊行した書籍『世界の民芸』では世界各国の品々を紹介。各地の気候風土、生活に育まれたプリミティブなデザインは民藝の新たな扉を開きました。一方、民藝運動により注目を集めた日本各地の工芸の産地でも、伝統を受け継いだ新たな製品、職人たちが誕生しています。本展では国内5箇所の産地で継承されてきた民藝の品々や、そこで働く人々の「いま」を紹介します。

そして、本章最後では、現在の民藝ブームの先駆者ともいえるテリー・エリス／北村恵子（MOGI Folk Art ディレクター）の愛蔵品や、世界各地で見つけたフォークアートと現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」を、インスタレーション展示で提案します。

第Ⅰ章：1941生活展 ——柳宗悦によるライフスタイル提案

1941（昭和16）年、柳宗悦は自身が設立した日本民藝館（東京・目黒）で「生活展」を展開。民藝の品々で室内を装飾し、いまでいうテーブルコーディネートを展示しました。暮らしのなかで民藝を活かす手法を提示した、モデルルームのような展示は当時珍しく、画期的でした。第Ⅰ章では「生活展」の再現を試み、実際に出品された作品を中心に、柳が説いた暮らしの美を紹介します。



右：緑釉水注 イギリス 14世紀 日本民藝館蔵
左：日本民藝館「生活展」会場写真 1941年

第Ⅱ章：暮らしのなかの民藝 —美しいデザイン

柳宗悦は、陶磁、染織、木工などあらゆる工芸品のほか、絵画や家具調度など多岐にわたる手仕事の美を、日本のみならず朝鮮半島、中国、欧米などの各国を訪ね、集めました。時代も古くは縄文時代から、柳らが民藝運動を活発化させた昭和にいたるまでと幅広く、とりわけ同時代の、国内各地で作られた手仕事の日常品に着目し、それらを積極的に紹介しました。第Ⅱ章では民藝の品々を「衣・食・住」に分類し、それぞれに民藝美を見出した柳の視点をひも解きます。



[左から]濱田庄司、芹沢銈介、外村吉之介『世界の民芸』 朝日新聞社 1972年 個人蔵＊／
人形 フニン県ワシカヨ（ペルー）20世紀後半 静岡市立芹沢銈介美術館蔵／
靴下 アゼルバイジャン地方（イラン）20世紀後半 静岡市立芹沢銈介美術館蔵



各産地の製作風景
[左から]小鹿田焼（大分）＊／鳥越竹細工（岩手）＊／八尾和紙（富山）＊



千葉会場限定

民藝運動前夜

我孫子時代の柳宗悦
朝鮮美術と白樺派

柳宗悦は20代後半～30代はじめまで、千葉県我孫子市で過ごしました。日本民藝館から特別にお借りした作品や、千葉県立美術館のコレクションを通して、千葉と民藝の関わりをご紹介します。

民藝 MINGEI

美は暮らしのなかにある



本展特設ショップも
お楽しみい!

MOGI Folk Artディレクターの
テリー・エリスと北村恵子、
自邸の愛蔵品 Photo:Yuki Ogawa



スリッウェア鶏文鉢 イギリス 18世紀後半
日本民藝館蔵 Photo:Yuki Ogawa



〔展覧会公式サイト〕 <https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>



〔展覧会公式SNS〕 @mingeiten X @mingeiten

観覧料

()内は20名以上の団体料金

一般 500円
(400円)

高校・大学生 250円
(200円)

*中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と介護者
1名は無料 *アンケートに答えた高校・大学生等は無料

イベント

※詳細は決まり次第当館
ホームページでお知らせします。

講演会

「暮らしのなかの民藝」

〔日時〕 5月11日(日) 14時~15時30分
〔講師〕 森谷美保(本展監修/美術史家)
〔会場〕 千葉県立美術館 講堂
〔定員〕 180名(事前申込制)
〔受講料〕 無料

トークイベント

「MOGI Folk Art ディレクターに聞く、 豊かな暮らしのつくり方」

〔日時〕 5月24日(土) 14時~15時30分
〔講師〕 テリー・エリス/北村恵子(MOGI Folk Artディレクター)
〔会場〕 千葉県立美術館 講堂
〔定員〕 180名(事前申込制)
〔受講料〕 無料

千葉県立美術館 Chiba Prefectural Museum of Art

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 TEL 043-242-8311

<https://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

交通案内

- 電車・モノレール: JR京葉線または千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩約10分
- 自動車: 東京方面から 東関東自動車道「湾岸習志野」J.C.
成田方面から 京葉道路「穴川」J.C.
東金方面から 千葉東金道路「千葉東」J.C.
館山方面から 京葉道路「松ヶ丘」J.C. からそれぞれ約20分
※駐車場無料(78台うち2台障害者用)

CHIBA

